

## 「小論文講座」（講師：大堀精一様）がもたらしたもの

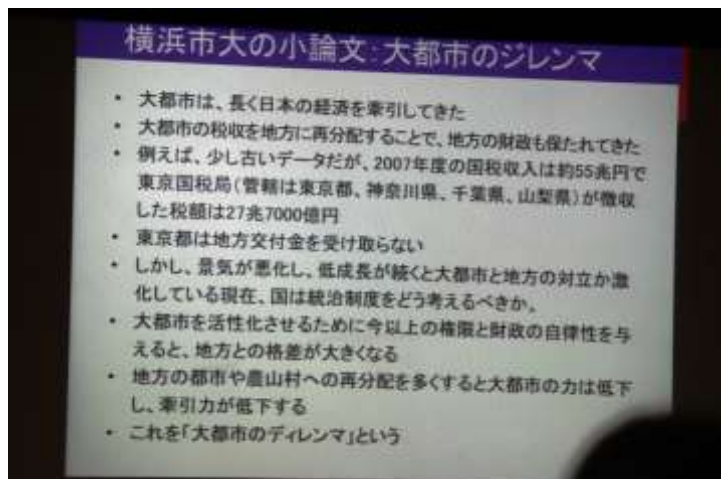
～ 『自分の知識、考え方を広げることこそが大切だと思えるようになった』 ～

秦野高等学校 校長 神戸秀巳

平成 27 年 9 月、大変厳しいスケジュールを調整していただき、何とか実現した大堀精一様による「小論文講座」。参加生徒たちの意識を大きく変える結果となり、講師からも『参加してくれた生徒さんの受講態度は掛値なしにすばしかったです。聞いている生徒がしっかり理解しようとしているのが、伝わってきました。実施できて本当に良かったです。』とのコメントをいただきました。



次年度もぜひ実現させてほしいとの職員たちからの強い要望を受け、昨年度から調整を続けたこともあり、5月 27 日（金）に実現の運びとなりました。当日は函館から東京を経由し、本校に直行していただきました。昨年度の高い評判を聞き、今回は教職員 14 名と教育実習生 1 名が参加し、PTA 広報委員会からも 2 名が取材に参加してくれました。今回は、2017 年度入試に向けて、『小論文のトレンドは何か』をテーマに講演をお願いいたしました。



講師の大堀精一様は『学研・進学情報』（学研アソシエ発行）の監修や小論文問題分析チームリーダーを務めつつ、教員対象の「小論文対策研究会」や各学校での「小論文講座」で毎年約 200 会場を飛び回っています。その一方、統括プロデューサーとして、京都大学の溝上慎一教授と一緒に、参加者約 250 名が集まる「高校教育フォーラム」を実施しています。秦野高校が主催して実施している「箱根進路指導サミット」にもほぼ毎回参加していただいています。



参加した生徒たち（3年生＋2年生）の感想を一部紹介します。今回の「小論文講座」が参加生徒たちの心を大きく揺さぶったことをご理解いただけるかと思います。

◆小論文は定型など書き方について学べば、出来るようになると思っていました。しかし、今回の講演を聴き、自分の知識、考え方を広げることこそが大切だと思い直すことができました。現在、過去の社会を知り、現代の問題に幅広く向き合おうと思いました。マイケル・サンデルさんにとっても興味を持ったので、何冊か読んでみようと思います。有意義な時間で、私の知りたいという気持ちがより一層強くなりました。楽しかったです。

◆小論文は奥が深いと思いました。自分の意見だけで考えを言えば良いと思っていたけど、それは違い、その問題に対する背景を知ることも大切だと知りました。新聞記事やマイケル・サンデルの文など、自分の興味をひく記事をもっと読んでみたいと思いました。普段生活する時に、自分の頭に入ってくる文や問題は興味があるものばかりだが、評論や雑誌、哲学など違う話題の方面の文章を知ることが大切だと分かりました。単語や物の見方をあいまいにせず、調べるようにし、ニュースなどを見るだけでなく、日常から自分の意見をはっきりと述べられるようにしていきたいです。

◆普段一人で読む時は、こんなに深く考えて読んでいませんでした。難しいと思っていた文章が多く出てきましたが、いろんな場合を考えながら読んだら、「なるほど作者はそういうことが言いたかったのか」と理解できました。講座を聴いて、どうしたら今の状況から抜け出すことが出来るのか、格差が生じてしまう前の利点と欠点は何か、もう一度考えてみようかなと思えるようになりました。

◆看護系だからと言っても、必ず医療関係のことを書くのではないと気づけてよかったです。小論文を書く練習も、ある傾向に偏らないで、色々な問題を解いていこうと思いました。

◆日本における社会問題の深刻さを身にしみて感じました。今の日本の現状をあいまいにしか知っていなかったので、知ることができて良かったです。過去問の解説も分かりやすく、とてもためになりました。今回の講座を聴いて、もっとニュースを見て、日本だけでなく、世界の現状について学ぼうと思いました。

◆自分一人ではわかりにくいことを丁寧に教えてくださり、受験に必要なポイントが明らかになりました。

◆すごくためになる話を聞くことができ、良かったです。もっと社会についての基礎知識を持つ必要があるなど改めて感じました。最近のグローバル社会や格差社会について、あいまいにしか知らなかったので、今回のお話でちゃんとした知識にすることができて良かったです。自分の意識も変えられたと思います。これからもっと広い目で社会を見ていけるようになりたいです。

◆普通に過ごせている裕福な人、国があるということは、どこか違うところで必ず貧困生活や苦労があるということを忘れないで過ごしたいと思った。この講演を通して、格差、グローバル、地域、政治など、色々なことについて自国だけでなく、他国のことも知っておくことが必要だと思った。また、これから起こる「問題」に着目し、過去の出来事やデータと比較し、自分の意見をしっかり発見していけるようにしたいと思う。

◆自分の社会問題に対する理解の甘さをとても感じた。広い知識と理解力、そしてそれに対しての自分の意見を持つことが大切だなと思った。とても面白い内容で役に立ったので、今後の生活において良いものが聞けました。

◆講演を通し、自分がいかに時事や日本の抱える問題に対して無知であり、無関心で、今ある日本の日常が当たり前になっていることを痛感しました。もっと視野を広げ、練習していこうと思いました。

◆今回の講義を受けるまでは、小論文の書き方をメインに考えることが一番大切だと思っていたが、考え方が変わった。何よりも社会全体に目を向け、知ることが大切だと分かりました。自分の考えを持つことから始めたい。

◆最初は文の書き方などを学ぶのかと重い気持ちで向かっていたが、内容は濃く、とてもいい情報を得ることができました。過去、現在の社会、これからの社会はこういう風になるという傾向を知ることができました。また、説明も分かりやすく、とても身になりました。まだ、2年生なので、本や新聞を見聞きして、自分なりの方法、手段で知識を蓄えて

いきたいです。時間に余裕があるからといって無駄にしないように気をつけたい。

◆ただ文を書くのとは全然違って、色々なところに目を向けていなければならないし、常識はもちろん+ $\alpha$ での知識や偉人の考え方、個人の意見が必要と分かった。2年のうちにこのことを知ることができて、本当に良かったと思う。もっともっと新聞や本を読んで、この講義で話していたことをもっと理解できるようになりたいです。

大堀精一様、これまでの心あふれるご対応とご協力に深く感謝いたします。今後とも、引き続きよろしく願いいたします。8月に京都で実施の「高校教育フォーラム」において、全国の皆さんとまたお会いできるのを楽しみにしています。

【注】 使用した写真はすべてPTA広報委員会が提供してくれたものです。感謝！！